

情報システム・バックアップオフィス研究会(ITBO 研) 2021 年度 第 9 回 議事録

1. 開催概要

- 開催日 :2022 年 1 月 25 日(火)18:00~20:00
- 開催方法 :ZOOM 開催
- 進行役 :加藤(本年度座長)
- 議事録作成: 大塚
- 出席者数: 6 名(出席者名は末尾参照)

2. 議事内容

(1) 運営会議の報告

1月17日(月)開催の運営会議の内容を研究会メンバーに報告した

タスクフォース、運営部門活動報告

コロナ・オミクロン株の急速な感染拡大による計画した事業の中断(延期)について

(その代わりとして第三回中小企業事業継続研修会(3/15予定)をITタスクフォースで担当)

(2) 第三回関西地区勉強会合同研究会(2/16開催)の準備会議の告知(大塚)

- 1/26 19:00 ~ ITBO 研の方はできるだけ参加していただきたい
- 議題は、テーマ選定、進行方法の話し合い
- 前回の消化ができていないのでそれを継続するというイメージ(近藤)
- たまたまオミクロン拡大に伴い BCP にフォーカスが当たっている。中小企業が中心にこれから BCP 作成すると報道されているが、間に合うだろうか?(岡)
- 社会で BCP がブームになっているうちに BCP 普及に力を入れよう(水落)
- オミクロン BCP があるかないか? BCP 発動した? する予定? あたりを確認する会になるだろう
- オミクロン株の特徴は?
 - デルタ株の4~5倍の感染力⇒病欠する人が急増する。英国では最大25%(10%、20%、25%) 欠勤を想定した BCP を準備することを呼びかけている(公共部門対象)
 - オミクロンは何度でも再感染する可能性が高い
 - オミクロンでも後遺症はそこそこあるらしい
 - ワクチン2回接種者の感染数多数(感染確率が打ってない人に比べ3分の2程度)、重症化率は低下する
 - 一般のワクチンと比べるとオミクロンに対するワクチン効果はありと判断できる
 - デルタに対するワクチン効果は十分あったので、時間がたったことが効果現象の理由かもしれない
 - 基礎疾患者の持病悪化に対する病院施設不足が重要問題となっている
 - ワクチン多数回接種の効果の結論が出ていない。(EU で効果低下の可能性があると報告)⇒ワクチン接種が最終手段ではない
 - 鳥インフル(新型インフル)BCP の想定は、感染して回復した要員は感染しない想定、接触感染を想定(オミクロンは飛沫感染一部空気感染)、感染経路は家庭内感染以外のクラスター感染が主
 - 1/25 現在 200 人に1人感染⇒従業員 8000 人企業では 40 人⇒全従業員に在宅勤務を推奨中
 - 検査陽性率の急上昇。年始は1%以下現在25%。無症状感染者無検査者が相当数あると予想される、これらの感染者が感染拡大の原因となっているだろう。
 - 保育所閉鎖に伴う在宅勤務困難、子供から大人への家庭内感染拡大
 - 5類感染症なので、感染者は在宅でも規則上業務をさせてはいけない
 - 濃厚接触者は規則上業務させられるか? ⇒子供が感染者の場合、お母さん方は子供の世話で仕事は難しい。

- エッセンシャルワーカー(例えば看護師)の場合、家庭から隔離された宿舎で生活。
- オミクロン爆発はいつまで? ⇒ここ2, 3日で増加率の鈍化がみられる、まだ予断は危険。次回研究会のタイミングで再検討。現在重傷者、死亡者数が増加しておらず予測は難しい。これが予想外に上がってきたら大問題になるだろう
- 基礎疾患が悪化して死亡した場合はコロナ原因の死亡者にはならないので、こちらを注意する。ワクチンを接種し重症化しない対策をとる
- 東京では病床使用率を意図的に下げており(自宅療養をすすめているため)コロナ拡大終息予想の参考になる数字ではない。現在入院者外部施設滞在者合わせて全体の8%となっている
- 在宅勤務推進と入院抑制措置のため結果的に家庭内感染者が増加する
- 結果的に欠勤者急増に対応したBCPが必要となっている
- 以前の飲食店中心のクラスター発生を抑止する状況とは違う
- 特徴は小学校、保育園でのクラスターが増加している。いままで少なかった秋田県の患者数3ケタは子供
- (参考)東京都公表新型コロナウイルスに関連した患者の発生について(第XXX報) (加藤さん提供)

<https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/hodo/saishin/corona2842.files/2842.pdf>
1/27 の例

(3) 2008年鳥インフル(新型インフル)BCP との比較

- 重要でない業務の停止、要員を再配置する(ただし業務の連携をよく分析し重要業務継続に影響ないことを確認)
- スプリットチーム編成は有効(ただし帰宅時の家庭内感染を防止する)
- JR の場合、BCP として事務職で乗務資格のある人員を確保している。損ジャの場合、介護施設要員の代替として本社スタッフを派遣、KDDI の場合東西センターの要員で相互運用可能に、イオンの場合は本社要員を現場店に、関西電力の場合、40%要員減を想定した BCP、マツダは会食の禁止など
- 特に中小企業コロナ BCP が注目される理由
 - 中小企業の場合、普段からギリギリの人員配置で回しているので少しでも人員稼働率が減ると、ただちに業務へ影響する
 - 大企業に比べ専門人員(技能工)の代替が難しいので事業継続が不可になる可能性が高い
 - 中小企業の BC がサプライチェーン全体に影響する。(例えば半導体のリードタイムが420日と報道、加藤さんの記憶では過去リードタイム 40 日確保の BCP を作成)
 - 大企業の場合全国各地から応援できる要員がいるし、平常時にも予備役を確保している
 - IT部門で考えると専門要員を抱えているのはリスクになるので、外部に移管(クラウドなど)することを検討する

(4) トンガの海底火山噴火による有事対応の検証

- 日本ではほとんど実害はなかったが、津波警報が出たため各社緊急対応(津波対応マニュアル)を実施した。(日本製鉄釜石工場、日本製紙石巻工場、ニッサン追浜工場、原発各社など)基本は2階避難行動。物流一時停止の影響があった
- トンガ海底ケーブルが一時遮断したが、まもなく復旧
- 被災状況調査⇒リモートセンシング技術が有効利用
- 火山灰が成層圏に達したため異常気象が懸念⇒穀物、原油(食料・燃料)の高騰を予想
- 複合災害に対する備え⇒トンガの津波+新型コロナ感染の例
 - 支援物資輸送中に感染者が出た場合
 - 現地人との接触制限措置など

(5) みずほ FG・BK、金融庁に業務改善計画を報告(1/17)

(資料) https://www.mizuhobank.co.jp/release/pdf/20220117release_jp.pdf

- みずほ BK とみずほ FG の業務改善計画が順番に出ている
- 読んだ感想として響いてくるものがない。経営として大きく変わるというメッセージがない
- システムに関する改善対応策は点検と対応。→アプリ点検、エラーの波及範囲の対策の確認、安定稼働のためのメンテ作業内容の点検→システムエラーを人為的に発生させ確認する(今年9月)。
- インフラ基盤の点検(完了)
- 保守期限管理→再点検した後、だめだったものがあつたのでは
- バグ情報の管理、開発チェックリストが業者まかせであった、ということらしい
- システム障害発生時対応力強化→監視システム強化
- SCP の見直し→システム間連携の確認、訓練(実践型訓練、実機を使用した訓練)
- システム所管部の原因分析力強化→人員削減の影響か？
- 保守運用→人材強化
- 主要協力会社のスキル調査→業務委託先の話の場合、法律(下請法)に抵触する？
- MINORI システムに関する専門知識の可視化の話と解釈すべき
- 人員の増強→組織体制の強化(いままでの政策に逆行する)
- 予兆管理のポイントはその現象を正確にとらえること、予防実施計画を確実に立てる
- モニタリング要員がいらない？あるいは分析ツールの結果の解析ができない。生データを出すだけでは報告にならない
- BIA視点の欠如。お客様へのインパクトから逆算する考えが抜けている。現場だけでは難しいので業務部門との連携が必須
- しかし、コンポーネントエラーがお客様の何に影響を及ぼすか、IT現場レベルでは想像がつかない。営業業務部門への情報伝達も簡単にいかないだろう
- 今年5月6月に再度ウォーク・スルーを計画しているが最初のシステム・リリースするときに必ずやっているはず、どこまで本気でやるのか？
- じぶん事にする教育をすることが重要だがどこまでやれるのか疑問
- ガバナンス強化→取締役役にIT試験を受けてもらうとか必要ではないか
- 経営陣に対するフォローアップ
- 専門人材、高度化→実践するのは難しい。(株主向けメッセージか？)
- FGはBKの計画を検証し(監査し)監督する
- 内容はBKとだぶる。BKの内容の要約のような印象。
- 今後金融庁がどういこうかが、ポイントになる。金融庁から質問が出るのか、人を送り込むか、まだ紆余曲折がありそう。はやくて今月末
- 経営層の思い切った判断が入っていない、改善になっているか改革にはなっていない

(6) その他

アフターコロナのBCPは「宇宙天気予報」を気にしているだろう。(水落)

太陽風の急拡大による大規模電磁障害がインターネット環境に及ぼす影響が大きい

3. 次回

2月15日(火)18時-20時、ZOOM開催

4. 出席者(敬称略 順不動)

加藤、水落、岡、近藤、芦田(途中退席)、大塚

以上